

2020 年度第 3 四半期 業績説明会  
アナリスト・投資家向けセッション Q&A (要旨)

開催日：2021 年 2 月 3 日 (水)

重要：以下の事項をご確認ください。

本資料は、皆様のご参考のため、2020 年度第 3 四半期業績説明会でのアナリスト・投資家向けセッションにおける質疑応答の内容を要約したものです。

---

質問者 1

Q1: 【I&SS分野】イメージセンサーについて、10月の想定に比べて強い需要になっている背景を、現状どのように分析しているか。例えば顧客サイドで実需を上回る在庫の積み上げがあるのでリスクもあるという感触なのか。一方で、例えばファウンドリーを使っている競合がキャパシティを上げられていなかったり、ソニーが積極的に値段を下げていたり、顧客や他社の動向、若しくは自社の要因があると思うが、どのように分析しているか。

A1: 前回の想定との違いは、大手顧客の新モデルスマートフォンの販売が大変好調で、前回の想定よりも強いということと、中国特定顧客への出荷が一部再開されたこと。評価減の戻しもあるが、前回の想定では当該中国特定顧客への出荷が再開できるという想定にはしていなかった。したがって、販売数量が純粋に増加している。一方で、平均単価の想定に大きな変化はない。加えて、デジタルカメラ向けのイメージセンサーの増収もある。カメラ市場は想定よりも早く回復しており、この領域での販売数量の増加が増収に寄与している。

Q2: 【G&NS分野】PS5ユーザーのPS Plus加入率87%は非常に高いが、PS Plusに既に参加しているユーザーがPS5の初期の購入者なので高くなっているのか、PS Plusには従前参加していなかったが、例えばPS Plus Collectionによって加入率が引き上がっているのか。PS5ユーザーのネットワーク加入率の動向について、初動ではあるがどのように分析されているか。

A2: かなり初動なので、分析としては難しいが、加入率87%というのは大変高い加入率であると思っている。ご指摘通りPS Plus Collectionなど、顧客ベースを拡大するための施策が機能していると初期的には見ている。

質問者 2

Q1: 【連結】来期業績の目線について教えてほしい。今回の上方修正ではコロナの環境下もあって費用を使わなかったという状況もあったと思うが、3Qないしは下期の利益水準が来期も続くと思えて良いか。

A1: 来期については、4月の決算発表の時にきちんと当社のイメージをお伝えしたい。一時的な要因や、コロナの環境があったものの、ロングレンジで見ると、経営力は強化されており、個々の事業は強くなっていると思う。年度ごとの利益の増減はあると思うが、中期的なトレンドで

見ると利益水準は上がっていくのではないかと考えている。

Q2: 【連結】エンタテインメントで積極投資を行うということで、アニメーション・音楽等での投資を積極的に行っているが、さらに強化したい部分、又は足りない部分があれば教えてほしい。また、AWALの買収について、ソニーミュージックとThe Orchardとのシナジーをどう考えていて、中期的な音楽事業の売上と利益率成長にどう貢献していくかという点を教えてほしい。

A2: IP、DTC、テクノロジーを中心に投資を行う方針は変わらない。IPはエンタテインメントビジネスにおいては重要な資産であり、出発点なので、このIPを自分達で作って、保有し、マーケティングできるようなプラットフォームやテクノロジーが、戦略投資の対象となる。吉田CEOが申し上げている通り、「Community of Interest」が形成できるような市場に対して、深く入っていくというのが我々のビジョンであり、大きなテーマ。それに資するような投資については思い切って実行していく。AWALの買収について、The Orchardの顧客のコアはインディーズのレーベルだが、AWALはアーティスト個人を対象にしている。そういう意味では顧客のユニバースとしては補完関係にある。また、こういったプラットフォームがあることで、世界中のより多くの才能を見出して発掘できる機会が得られるので、大きな財産になると思っている。

### 質問者 3

Q1: 【連結】3ヶ月前に、天気図を用いて今後の事業モメンタムを開示した時点から今年度見通しが上振れている分、来期の減益リスクについてどう見ているか。具体的には、例えばゲームでハードウェアを大きく出荷できていない分、想定ほど費用等を使ってない、または、EP&S分野で部材の調達が難しくなっている、あるいはコストが上がっているの、前回よりは、来期のモメンタムを少し慎重に見た方が良いなど、考え方を教えてほしい。

A1: 前回お示した各事業の今後のモメンタムについて、天気図をアップデートすることは控える。外部環境によって今後変化する部分はあるものの、各事業について、現時点での考え方を紹介する。

G&NS分野においては、巣籠もり需要が高まっている状況を収益機会としてとらえ、ユーザーエンゲージメントの強化を柱に、ネットワークサービスの魅力をさらに高めることに力を注いでいきたい。

同じく好調だった音楽分野についても、ストリーミングの成長は非常に堅調で、コロナ禍で落ち込んだ広告の収益も回復しているため、安定成長を目指していきたい。強力なコンテンツIPの発掘・育成と、それによる価値創出を目指していく。

映画分野に関しては、劇場公開の延期があり、そのマイナス影響は今後出てくる。一方で、良いコンテンツに対する需要の高まりは今後も継続的に続くと思っており、広告ビジネスも回復してきている。ネガティブ要因とポジティブ要因が両方ある。

EP&S分野に関しては、安定した利益を創出できるよう、オペレーションの効率化を進めており、新たな事業機会の探索も行っている。

I&SS分野に関して、特に21年度は顧客基盤の拡大や分散により市場シェアを回復していき、そ

の先で付加価値を高める商品を展開することで、成長軌道に乗せるような方向性で取り組んでいる。

金融分野においては、市場要因が大きいですが、強い事業基盤を持っているのでそれを生かした安定成長を目指したい。

Q2: 【連結】IFRSをこのタイミングで適用する背景と適用による影響を教えてください。

A2: 国際的にIFRSの導入が進んでおり、中長期的にソニーにとって最適な会計基準は何かを継続的に検討してきたが、保険事業に影響のある会計基準の適用時期等も考慮した結果、来年度からの適用が最適と判断した。IFRS適用の影響は、まず金融事業に関して、債券や株式といった金融商品の評価方法が異なることから、B/Sで資本が増加する影響がある。一方、P/Lも、金融商品の評価方法が変わるので影響が出てくる。一方、金融を除くセグメントについては、B/S、P/Lともあまり大きな影響はないが、営業外で株式の評価損益の取り扱いが変わる影響が出てくる想定でいる。IFRS移行に関しては、補足資料を弊社のIRサイトに載せているので併せてご参照いただきたい。

#### 質問者 4

Q1: 【連結】営業利益の上方修正幅が大きく、年間の営業利益率見通しも8%から11%に上がっている。効率性が上がったと受け止めたが、利益率の上昇に対して、共通した社内の変化があったら紹介してほしい。また、今後の利益率の方向感についてどう考えているか。例えば、音楽の営業利益率20%はグローバルのトップクラスで競合と肩を並べるレベルだと思うが、ゲームの13%は、上昇の余地があると思われる。

A1: 全事業において、利益率に対する意識が高まっていると感じている。自分自身の過去の経験とオブザベーションから、利益率が低い事業はサステナブルな事業ではないと思っているので、利益率に対して社内の意識が高まったのであれば大変良いことだと思っている。今後の利益率の方向感については、ご指摘の通り、グローバルの同業他社と比べた利益率は常にベンチマークの対象としている。そこが劣っていると、最終的には競争に負けるということだと思し、同業他社がなぜ高いのかは徹底的に追求しなくてはいけないと思う。ゲームに関して言うと、ビジネスモデルが違うという差はある。1stパーティーと3rdパーティーでは、リスクとリターンのプロファイルは全く異なり、事業スケールの問題も影響する。営業利益率を形成する要素は色々あると思うが、グローバルでの同業他社のビジネスを深く理解することが、将来的にそこに少しでも近づけるということ、後押ししてくれるのではないかと考えている。

---

#### 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営陣の仮定、決定ならびに判断にも

とづいています。

実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見直しを見直して改訂するとは限りません。ソニーはそのような義務を負いません。新型コロナウイルス感染拡大は、重要なリスク及び不確実な要素の多くに悪影響を与える可能性があります。その他のリスクや不確実な要素、及び業績見通しと大きく異なる結果を引き起こしうるその他要素については、ソニーの最新の有価証券報告書（その後に提出される四半期報告書を含む）又は米国証券取引委員会に提出された最新の年次報告書（Form-20F）も合わせてご参照ください。